

# 孝經

## 開宗明誼章第一

仲尼居曾子侍子曰先王有至德要道以順天下民用和睦上下無怨汝知之乎曾子避席曰參不敏何足以知之



# 「落ち穂拾い記」

## ⑥「孝経」 小澤守拙

昭和11年（1936）

図版② 後書き

この手写された『孝経』は、神保町の古書の即売展で入手した。唐紙に赤の罫線をすり込んだ用紙に書かれている。半紙を半分にした大きさで、五十頁余りの線装本である。中扉の「今文孝経」の題字と巻末の後書きは、印刷である。後書きによれば、昔、陳の智永禪師が『真草千字文』を八百本書して、浙東の諸寺に各一本を施入した逸話は有名であり、その時の真蹟本とされるものが、日本に伝えられている。かの有名な小川本『真草千字文』である。また宋の尹夢龍も手写した『孝経』千余本を郷人にくばり、孝の道をおしひろめたとのこと。自分も読書の余暇に、「今文孝経」を手写し、楽しみとしてきた。これが積もりつもつて数百本に達した。そこで先人に倣って歴代

の古典である孝経を読んでいただくために、人に配ることにした。最後に、昭和十一年丙子開春八十老人小澤隆謹識「隆印」（白文印）「守拙」（朱文印）とある。筆者は、小澤隆という方である。印から「守拙」と号されたのであろうか。如何なる人物か不明である。書は、八十余歳の老人とは思われない筆使いである。魏晋の小楷の趣を具している。所々に行草体を取り入れている。後書きの後半では、もう数年の歳月を得て、宋の夢龍の千余本の数に達せんことを願うと記している。

この欄に関するご批評、ご意見、ご希望、ご質問などをお聞かせください。

木鶴室・伊藤滋

昔者陳智永禪師時書真草千文八百本。浙東諸寺。各施一本。宋尹夢龍手寫孝経千餘本。教鄉人讀之。承師則仍。辛文傳家法。朱體。夢龍則推已及人。之孝。俱其用意也。深矣。余讀書餘暇。手寫今文孝經以自娛。積至于數百本。始多散於人。之意。適感二公之事。欲施鄉之子弟讀之。今接古文而用今文者。由舊說也。唐玄宗詔令諸儒集議。卒以今文為定。親撰訓注頒天下。因自八分漸札刻石於大學。世稱石臺孝經。奉朝清和天皇以来。東宮積讀。必自高宗御註孝經始。歷朝承以為例。帝王尚此斯。庶民室可一日不讀孝經乎。余嘗書法。何敢效承師天假以數年。兀々不止。庶或得達夢龍手寫千餘本。之教也。

昭和十一年丙子開春八十老人 小澤隆謹識



1

# 書道芸術院

## 平成の群像 (2016)



「時の記憶・渺 (はるか)」重ねの作品 32cm×43cm×4.5cm

東 素子書

### 積 重 ね



「書は私の命…」と言い切られました師、中島邑水先生に古典を、それは厳しい指導をいただき、1986年元旦の急逝により、選択肢を迫られました。

師の書に対する真摯な姿勢、情熱、哲學的理念に支えられた高い技術に、決して品格を失わぬ美しさを保つ書作品、前衛作品。少しなりと師の作品に近づき度く励むも、代るべきものを見い出せず、私の中に重く深く沈潜しました。

師亡き後30年、何が出来、何をして来たのか。一日を確かに生き、邑水先生が創設された生成社、今は邑門会を始めとして、諸先輩の先生方、多くの方に導かれましての活動は、自主的・自発的に展開されています。

この形状は前衛書ゆえに実現し得る無上のよろこびです。その醍醐味は、核として、邑水先生の理念に重なり、凍とした美しい品格を大切に保持したいと心しています。

1枚の紙に揮毫した作品を、求める大きさに切り離し、重ねた形に。また、二つ折りを和綴じ本の形に。折り込んで折り本に形成など分解し、立体的に再構成する挑戦でした。

1枚の紙に揮毫した作品を、求める大きさに切り離し、重ねた形に。また、二つ折りを和綴じ本の形に。折り込んで折り本に形成など分解し、立体的に再構成する挑戦でした。

東 素子

# 書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

## 第162回全日本書道連盟理事会

9月15日(木) 上野精養軒にて第162

回目の理事会が開催され、主な議事は以下の通り。

1、書写・書道教育推進協議会の報告

次回指導要領改訂は本年度内に審議をまとめ、小学校は平成32年度から、中学校は33年度、高等学校は34年度から実施の予定で、改訂に向け精力的に取り組む必要性が高まっている。

2、日本書道ユネスコ登録推進協議会の状況報告

全国の団体署名が8月末現在1万4000件余集約され、うち41の各県知事、教育長、51の国立大学長の署名など全国的な盛り上がりとなり、9月5日宮田亮平文化庁長官に提出された。報道各社により報道もされた。2020年の本登録に向け17年3月文化庁に申請、18年に日本国内の代表に選考、ユネスコへ申請と続く。ご支援を。

3、書道夏期大学実施報告

4、28年度助け合い募金運動は例年通り実施予定。

5、助成申請2件(福島県書作家協会、全高書研北海道大会)認可。

6、高野山開創200年記念献書事業報告

・会期 11月8日～13日(前後期)  
・会場 大阪 堂島リバーフォーラム  
大阪にて献書展開催。

下谷洋子氏美智子皇后陛下御製歌の歌碑揮毫、建立される。

群馬展の祝賀会席上発表があり、大

- ・開会式 11月8日午後2時より
- ・作品集 献書全作品(900余点)10月末発行予定。献書者全員に配布、展覧会場にて販売も行う予定。
- ・その他 会員名簿(本年内発行予定)正会員証の作成配布。

## 2016毎日書道展審査会員・会員群馬展 併催受賞作品展

毎日展65回記念巡回展開催を機に継続され、本年で4回目となる。高崎シティギャラリーを会場として、9月16～21日開催。審査会員は68回展発表作品とは別に新作を発表、意欲的な取り組みで充実。初日には祝賀会に先立ち辻元大雲と前衛書の丸尾鑑使によるギャラリートークも行われ、盛況であった。



ギャラリートーク



皇后陛下御歌 歌碑の前に

いに盛り上がった。県内嬬恋郷土資料館前庭に本年6月23日建立、8月には天皇皇后両陛下がご高覧になられた。御製歌「熱泥の埋めし天明の村のあと掘る人群に吾子もまじれる」昭和54年(天皇皇后両陛下)は、御一家で天明三太子同妃両殿下は、御一家で天明三年の浅間山の噴火により埋没した旧鎌原村(現嬬恋村鎌原地区)を御視察になられ、その際に大学生であられた皇太子殿下(当時浩宮殿下)がその発掘作業に参加されたお姿をご覧になつた時のことをお詠みになつたものである。副題として建立の経緯を熊川栄町長起草。下谷さんの快挙、大いに過ぎたい。

## 個展・遺墨展など各種開催

・竹田悦堂遺作展 現代書道院創立70周年記念事業として、銀座セントラル

ミュージアムにて9月13日～18日開催。かな作品を中心として多彩な作品群で見応えがあった。19日には帝国ホテルにて500名余の参加者による祝賀会も盛大に挙行された。

・没後20年記念野崎幽谷遺墨展

9月13日～18日、愛知県名古屋市電気文化会館を会場に草野心平詩を中心にお超大作が会場を埋める。金屏風に墨痕鮮やかな詩文書、ひそやかな中に慈愛のこもる淡墨作品など、多彩且つ気迫の作品群で観者を圧倒する。

・書業50年 清水透石展 9月20日～

25日、東京銀座画廊美術館にて開催。読売展の中で関東のかな作家として大きな存在を示される。本院の祝賀会などではご祝辞をいたくなどお世話になつてている。今関脩竹先生門下のご高弟として正統派のかな表現を貫かれている。

・赤平泰処書展 9月27日～10月2日、東京銀座画廊美術館。個展は8年ぶり7回目の開催になる。篆隸を中心とし超大作から小品まで多彩。

## 岡山児島で書道講演会開催

9月18日、岡山県近代詩文書道連盟

展30回記念、書道研究書芸院創立50周年記念として、岡山児島市民交流センターを会場に開催。本院常務理事小竹

タケシ氏の肝いりによる事業で、午前中

に辻元大雲「生涯 書を楽しんで 豊かに生きよう」、午後本院常任総務広瀬舟雲氏による「書の文化を紡ぐ子供を育てる」書写教育の最前线から」の2講演。会場満席の300名余が参加され大盛況であった。来年も続けて企画されており、熱氣溢れる会場であった。

## 漢字(一)

生田翠龍

## かな(一)

勝山初美



「琵琶行」 生田翠龍書

掲載図版は、2×8尺版を横10連にして1枚物に表装した行草の少字数・多字数混交の作品を展示したがたで何とかして会場まで行けた事情などを

顧みて、感無量な展示となりました。

そもそも創作の過程は落款をもって終るのではなく、展示し鑑賞に供することを以つて完結するものと私は思っています。鑑賞していく

ただくことで、作品は作者の手を離れ、ひとつ自立した存在となります。

書きき放しのもの、捺印に至らないでボツになるもの、最後まで書ききらないで捨てられたりしたものの等々を考えるとなるでしょう。

この作品は横5.5×縦2.5mの作品で、揮毫も表装も今までない工夫が必要でした。

## 21世紀の書 —私の主張—



石山切「伊勢集」

和歌色紙



過日、出光美術館の「書の流儀」文字の力・書のチカラを拝見しました。古筆の流儀のブースには、継色紙・石山切「伊勢集」・筋切・高野切第一種・中務集・倭漢朗詠集、等々親しみのある古筆がたくさん展示されていました。流麗で抑揚に満ちた伊勢集は継紙の料紙も時代を感じさせぬ鮮やかさで、料紙の野線を筋と見立てる筋切は、草がなをアクセントに流れ落ちるようナリズムです。また、高野切第一種には改めてその気品の豊かさに、かなの原点を知られる思いがありました。なかで

古筆を観る

桃山時代の和歌色紙（後陽成天皇）は、寸松庵色紙にも通ずる消息風の散らし書きで、今日見ても紙面構成が斬新で、躍動的な運筆と線の太細の変化は驚くばかりでした。

戦乱期から現代へ、時代を越えて伝えていただいた先達に感謝し、今遺された古筆を拝見できる奇跡を、作品に生かせるよう精進したいと思います。

私は、昨年の「書道芸術院秋季展」の推薦作家と今年1月の「TOKYO書2016」の大作に出品させていただきました。未熟な私には重過ぎる展覧会でしたが、作品に対する思索の機会となり、心から感謝しています。

## 平成28年度 新審査会員作品

II

河岡北秀（漢）・生田珠翠（漢）・田澤館楓（現）・須藤彰仁（前）



河岡北秀  
(大阪)

「登」

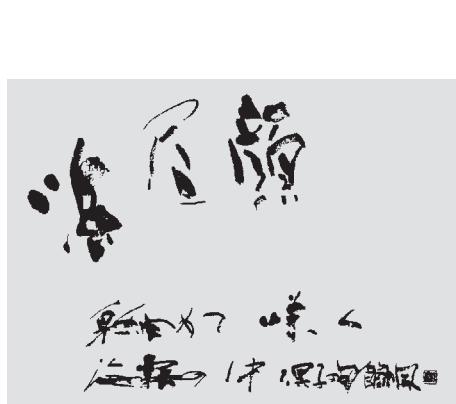


小伏竹村先生、小伏小扇先生、会の皆様の熱心で温かいご指導とお力添えによって今日に至りました。深く感謝申し上げます。一步一歩、大地を踏みしめながら精進を重ねたいとの気持ちを込めて、「登」を甲骨文字で書作しました。これからも初心を忘れず取り組みます。  
(北秀)



田澤館楓  
(青森)

「浜屋顔身細めて咲く海霧の中」  
藤木俱子の句



白と黒のコントラスト、余白の美しさを求めて横作品に挑戦しました。佐々木晩楓先生をはじめ、多くの方々に支えられて書を続けてきました。今後とも豊かな線質を求め、潤筆と渴筆が織りなす魅力ある作品作りをしたいと考えています。  
(館楓)



須藤彰仁  
(富山)

「志」



—書美創造—への「志」を忘れる事なく、チャレンジャーとして常に前進し続けるという意思を込め書作しました。「書は線が命」をモットーに、線質・造形・構想・墨色が織り成す無限大の可能性を追求し、これからも精進して参ります。ご指導下さいました田守光昭先生はじめ書道舎の皆様に感謝申し上げます。  
(彰仁)



「一期一会」



生田珠翠  
(鳥取)

小学生の時、母に連れられて書道塾へ。以来、木村船翠先生のご指導を受け、山陰支局の先生方、先輩、書友の方々と出会い支えられて今日まできました。皆様に心より感謝しております。生涯学べるものがある喜びを感じながら、これからも書の道を楽しみ精進してまいりたいと思います。  
(珠翠)

# 「恩地春洋先生お別れの会」

日 時 平成28年8月28日(日) 午後1時30分より3時まで  
会 場 天王寺 都ホテル  
世話人 (公財)書道芸術院 理事長 辻元 大雲  
(一財)毎日書道会 理事長 朝比奈 豊  
玄 遠 社 顧問 小伏 竹村

しめやかな中に莊厳に挙行された  
「恩地春洋先生お別れの会」は、1000名  
余の参加者で盛大でした。毎日書道会  
朝比奈豊理事長はじめ多くのご来賓に  
お出でいただき、深甚の謝意を申し上  
げます。世話人代表三者のお別れの言  
葉を掲載させていただきご報告とさせ  
ていただきます。

辻 元 大 雲

## お別れの言葉

「頼みますよ 理事長」

恩地春洋先生の穏やかな笑顔の写真  
を拝見しながら今年2月1日東京・銀  
座で開かれた「恩地春洋展」を訪ねた  
おり恩地先生がおっしゃった言葉を改  
めて思い出します。あの時恩地先生は  
すでに末期の肺がんを患っていました。  
いましたね。

「捨」(しゃ)の終焉」という個展  
のタイトルに私は恩地先生の覚悟を感じ  
じ、これは是非会場にお伺いしなけれ  
ばならないと思いました。

先生のご案内で作品を拝見したあと  
たくさん話をうかがいました。あの時  
に先生が創設にご尽力いただいた国際  
高校生選抜書展が25回を迎える記念に  
関西の書家代表として感謝状をお渡し  
したいという話をさせていただきました。

毎日書道展の関西展の顕彰式でお渡し

たね。先生は固辞されましたが最後は  
毎日書道展の顕彰式でお渡し  
する約束をしました。  
しかし叶いませんでした。無念です。  
本日ご家族によくお渡しできま  
した。先生喜んでいただいていますか  
なぜ「捨」という文字にこだわってい  
るのですかと先生にお尋ねしたとき少  
年のようににはにかんだ先生から明確な  
答えはうかがえませんでした。

平成28年8月28日

毎日新聞社代表取締役会長  
朝比奈 豊

恩地春洋先生 ありがとうございました。  
先生の「頼みます」のお言葉にお応  
えすべく書道界発展のために微力を尽  
くすことをお誓いし、私のお別れの言  
葉とします。

毎日新聞社代表取締役会長  
朝比奈 豊

恩地春洋先生 ありがとうございました。

字通り奔走していただいたのが恩地先  
生でした。私(わたくし)を捨て頑張  
るのだという先生の決意が捨という字  
に秘められていたのでしょうか。

大字書という毎日書道展の一翼をにな  
う新しい部門のリーダーとして、毎  
日書道会理事、最高顧問として語り尽  
くせぬお世話になりました。

感謝でいっぱいです。

春洋(しゅんよう)、いい名前です。  
てっきり雅号だと思っておりました。  
しかし本名だとうかがい生まれながら  
の書家でいらしたのだと得心しました。  
2月に東京銀座の文春画廊で開催され  
た「捨の終焉」は何かしら先生の秘め  
られた想いが感じられる、心に響く素  
晴らしい展覧でありました。続いて5  
月に郷里高知で開催された「捨の終焉」  
からふるさとへでは、作品展示と共に  
に作品についての想いを述べられた臨  
場講演と、多くの方々に囲まれての祝  
賀懇親会までお元気にお努めなされ、  
参觀の皆様に多くの感銘を与えてくれ  
さつたばかりでありますのに、誠に

恩地春洋先生 本日ここに先生にお

別れの言葉を申し上げなければならな  
くなるとは全く思いもしませんでした。  
ここ最近ご体調が充分ではないことは  
承知しておりますが、こんなにも急  
にとは思ってもいませんでした。本年

2月に東京銀座の文春画廊で開催され  
た「捨の終焉」は何かしら先生の秘め  
られた想いが感じられる、心に響く素  
晴らしい展覧でありました。続いて5  
月に郷里高知で開催された「捨の終焉」  
からふるさとへでは、作品展示と共に  
に作品についての想いを述べられた臨  
場講演と、多くの方々に囲まれての祝  
賀懇親会までお元気にお努めなされ、  
参觀の皆様に多くの感銘を与えてくれ  
さつたばかりでありますのに、誠に

残念で残念で仕方ありません。

先生は書道芸術院の創立当初から、  
師の川崎梅村、白雲先生と共に関西、

四国高知での活動を基盤に、書道芸術

院代表として毎日書道展、全日本書道連盟、更に海外での活動も精力的に展

開されてこられました。欧米諸国はも

とより、特に近隣の韓国、中国、台湾などアジア諸国と書をはじめとする芸

術文化関係団体との友好交流で、大変

なご功績を挙げてこられました。このご功績は正に枚挙に暇がありません。

私達は先生の幅広い、また常に慈愛

に満ちた心遣いに見守られ育てて頂き、

今日に至っております。このご恩はあ

まりに大きく、お返しすべき手立ても

見当たりません。先生からいただいた

ご恩、ご教示はまだまだ語り尽せませ

ん。これから私達はどうのように歩を進

めていけばいいのでしょうか。前途を

思うとき、不安にかられます。しかし

これからは先生の心を心として、一步

一步、歩を進めていかねばなりません。

このことを心強く銘じて前へ進んで

いく覚悟です。

どうか恩地春洋先生、残された私共

を天からお見守りください。そして

あの穏やかな慈愛に満ちた笑顔で暖かくお別け下さい。

の旅立ちとご冥福を心よりお祈り申し

上げ、お別れの言葉といたします。

合掌

平成28年8月28日

公益財団法人書道芸術院代表

理事長 辻 元 大 雲

本日ここに毎日書道会最高顧問・公

益財団法人書道芸術院顧問・玄遠社会

長 恩地春洋先生のお別れの会が厳か

に執り行われるに当たり、謹んで哀悼

の誠を捧げ、玄遠社を代表して、お別

れの言葉を奉呈いたします。

恩地さんは平成28年6月14日21時18

分87歳の生涯を閉じられました。生有

るものは必ず滅すとはもうせ、兄弟子

の私をおいて先に鬼籍に入られるとは、

痛恨の情に耐えません。

顧みますと1976年昭和51年恩師川崎白

雲先生の書道界引退を機に、直門4人

が強力な絆で結ばれ、恩地さんを会長

に「玄遠社」を立ち上げ、これを一流

の書人集団に育て上げることに懸命の

努力が払われました。

そして恩地春洋さんは1986年（昭和61

年）書道芸術院理事長に就任、俄然行

動が活発化しました。さらに2000年（平

成12年）書道芸術院の第7代会長に就

任するやますます行動の輪が広がりま

した。その間書道界に貢献された功績は書道界の皆さんのが周知されているところであります。

ところで恩地さんはここ10数年「捨てる」という一字を書展に、個展に、グループ展に毎年のように発表してこられました。私の質問にも笑って答えてられませんでしたが、次第に表現からご質問にも笑って答えて、「己を捨て俗気が消えていくのを見て」「己を捨て」ということだなあと感じるようになりました。私にもそうせよと示唆しているようにも思いました。それが先生の生き様であったと思思います。宿命に生まれ、運命に挑戦し、そして使命に燃え切った先生であります。

ありがとうございます。恩地さん。玄遠社にとって恩地春洋先生を失うことは大きな痛手であります。先生の遺志を受け継ぎ、会員一同協力して会の発展に努力してまいります。どうぞ、やすらかにおねむりください。

さて、本日ご参列くださいました皆様方に高いところから失礼ではございますが、一言お詫のことばをもう少しあげたいとおもいます。

本日のお別れ会は恩地春洋先生が会長を務めます玄遠社と、顧問を務めます公益財団法人書道芸術院と、最高顧問を務めます財団法人毎日書道会並びに毎日新聞社との三者が共催で世話を務めさせていただいております。毎

道芸術院にも多大のご尽力を賜りました。私も玄遠社一同心から感謝申しあげております。

それにもまして近隣はもちろん日本各地から、また韓国から、ゆかりの方々がご参列ください、ご厚情のほど衷心より厚く御礼申し上げます。故人恩地春洋さんも涙して喜んでいること存じます。ありがとうございました。以上で玄遠社を代表してのご挨拶を終わらせさせていただきます。ありがとうございました。

2016年（平成28年）8月28日

玄遠社代表 小伏竹村



第52回 書道芸術院単位認定講習会（大分）

会場＝大分県大分市 レンブラントホテル大分

会期＝平成28年8月20日（土）21日（日）

主管 九州支局 代表 牧 泰濤

第52回単位認定講習会は、50年来の悲願が実現した新大分駅を中心とした新大分市街の中心地で開催されました。好天に恵まれ、受講者は101名でした。

2階だけでも実施の会場に恵まれ、スムーズな運営ができた」（辻元理事長）「アツトホームな講習会ができる」（小竹常務理事）の感想をいただきました。

以下、日程順にスナップ写真と地元受講者の感想とで報告いたします。

恩地春洋先生への謝恩と哀悼の辞に始まり、院の精神を説く辻元理事長の挨拶で2日間の心構えができた。△感想▽（今井等山）全国から来られた方々の熱気が感じられ、少し気合を入れてやらなければと思いました。かなや前衛書等に初めて取り組む参加者は感いたしましたが、自分でも出来



### 最後の点検をするスタッフ

るみたいという発見もありました。△感想△（久野瞳美）当初、場違いのような気がして落ちつきませんでしたが、得るものが多く感謝でいっぱいです。

「篆刻」（成印を彫る）（寿の一文字）  
△感想△（片山有心）周りを見るとみなさんかなりの腕前の方ばかりのようで身の置き所もない感じでしたが、仲間もたくさんいたし、今後、多分違うこともないかもしない科目も含め、書道の一通りの科目を経験できたのは参加したからこそです。すべての中でも一番成績が悪かったけど、篆刻が一番面白かったです。

▲書写▼ 11.. 30 12.. 50  
「最新の書写書道の動向と学校現場  
における書写の基礎・基本」



辻元理事長（中央）、講師・助講師陣（右）  
本部役員（左）と受講のみなさん

講師 広瀬 舟雲先生  
助講師 名越 蒼竹先生  
△感想△(神志那詩心)「鉛筆は人指し指に沿って持つとよい、縦組びの“す”は寸の草書だから右に出ない。軟筆の意味や朱筆で字形の良否だけの書写指導は今や古い」等、講師の上手な話術で楽しく学べました。  
(写真9ページに掲載)

△記念撮影▽ 13.. 50.. 14.. 00  
会場中央で天井の撮影場から。地震  
を恐れず参加した総勢123名。昼食後の  
満ち足りた表情の記念撮影。2日間で  
地震にも書道にも大きな自信ができた。  
(写真9ページに掲載)



熱血指導の後藤先生（左）

△書寫▽

△記念撮影▽

^  
かな  
▼

△かな▽

「関戸本古今集より部分拡大臨書」

・かな用加工紙(半切縦 $\frac{1}{4}$ )に書く

講師 平川峯子先生

感想▽（三浦直美）かなでは平仄

文字一文字、そして繋がりも字を知

うないと表現できていないことを知り、心がふくらまつた。これから

文字毎を理解して表現できるよう勉  
めし恥ずかしくなりました。これから

強していきたい。書道漬けの充実した

2日間で改めて書道の奥深さを知り、

冒道が一層好きになりました。

漢字

## 「漢字多字数に臨書をどう生かすか」

半切  
 $\frac{1}{2}$ 2行又は3行の行草書

THE JOURNAL OF CLIMATE

「漢字多字数に臨書をどう生かすか」



『はらい』や『はね』を説明する広瀬講師（右）と資料提示の名越助講師

A black and white photograph showing a group of approximately 15 people standing in two rows. They are dressed in a mix of traditional Japanese clothing (kyōgi) and Western-style attire. The setting appears to be an indoor event space with a patterned carpet.

地震を恐れず参加した総勢123名。

2日間で地震にも書道にもそれぞれ大きな自信ができた。

敢えて半切に大きく模範揮毫する  
平川講師

漢字

## 種々の大きさの用紙に書いた資料を 説明する竹本講師

業は、前衛書と現代詩文書。いろんなイメージをして楽しめたのです。しかし、イメージはしても紙に書けない。

自分の引き出しの中に何も入っていない事を痛感しました。

△懇親会▽ 19:00 ~ 21:00

あたふたと用具の後始末をして予定時刻に全員着席。今回は本部役員、講師、助講師の作品、講義資料をたくさんご寄贈いただいた。加えて西本皆文堂、墨連堂、一休園様より景品、ご芳志をいただき、全員が「お宝」をニコニコ顔で手にし、楽しく懇親ができた。ただ、先生方のお作品の紹介が不充分だったことを深く反省。それにしてもいつも乍ら前夜に続いて今夜も、元気いっぱいの芸術院パワーが大分の夜に炸裂!!



白と黒のバランスを熱く語る三森講師（右）  
と福島助講師



くじ引き着席だったので、不見不知の人とそれこそ懇親できた。



隣の部屋へ移動して実物を拝見、一様に驚き、感激。



たくさんの資料を提示して  
熱血講義の尾形講師

△前衛書▽

第2日  
△原拓書道史▽ 8:30 ~ 9:50  
「山東省の書道遺跡」

講師 種谷 萬城先生  
助講師 半田 藤扇先生

が…。一見に如かずですね。

朝食前、6時から種谷、半田先生はじめ理事長・各講師陣も参加、10数名で三方に大きなビニールシートを敷いてバッチャリ、まさに朝飯前の見事な設営。昨夜あんなに……のに。

△感想①▽（木部観月）講習会とてもよかったです。原拓など大學などでしか見られない。どのような授業があれば来年もまた参加したいと思いました。時間が足りない感じです。もう一日あればいいなと思いました。



中央会場で事前説明の種谷講師（右）  
と半田助講師

△感想②▽（安部芙蓉）一番難しく感じましたのは、原拓書道史のお話でした。やはり中国へ行って直接見ること

△現代詩文書▽ 10:10 ~ 11:30  
「古典（古筆）手がかりに創作する」  
講師 尾形 澄神先生  
助講師 玉井 瑞鼎先生

△現代詩文書▽ 10:10 ~ 11:30  
「古典（古筆）手がかりに創作する」  
講師 尾形 澄神先生  
助講師 玉井 瑞鼎先生



# 蘭亭序（東晉・王羲之）①

漢字研究部臨書課題

II (半紙普通判・縦使用) 左記の法帖より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題

II (毎日履公募サイズ以内・縦横自由)

当該古典の左記掲載部分以外も可。

〈解説〉蘭亭序は、書聖・王羲之（307～365）の書で古くからもっとも尊ばれてきた行書の名品である。東晋の永和9年（353）3月3日、王羲之が会稽山の麓に名士41人を招き、流觴曲水の雅宴を催した。蘭亭序は、その時詠まれ

た詩を集めたものの序文である。現存する蘭亭序は、初唐の時代に臨書や模書（薄い紙をのせて書き写すこと）によって作られたものである。掲載図版は、「張金匱本蘭亭序」と称する伝本で、虞世南の臨本とされる。（編集部）

永和九年歲在癸卯暮春之初會

子會稽山陰之蘭亭脩禊事

也。羣賢畢，至少長咸集。此地

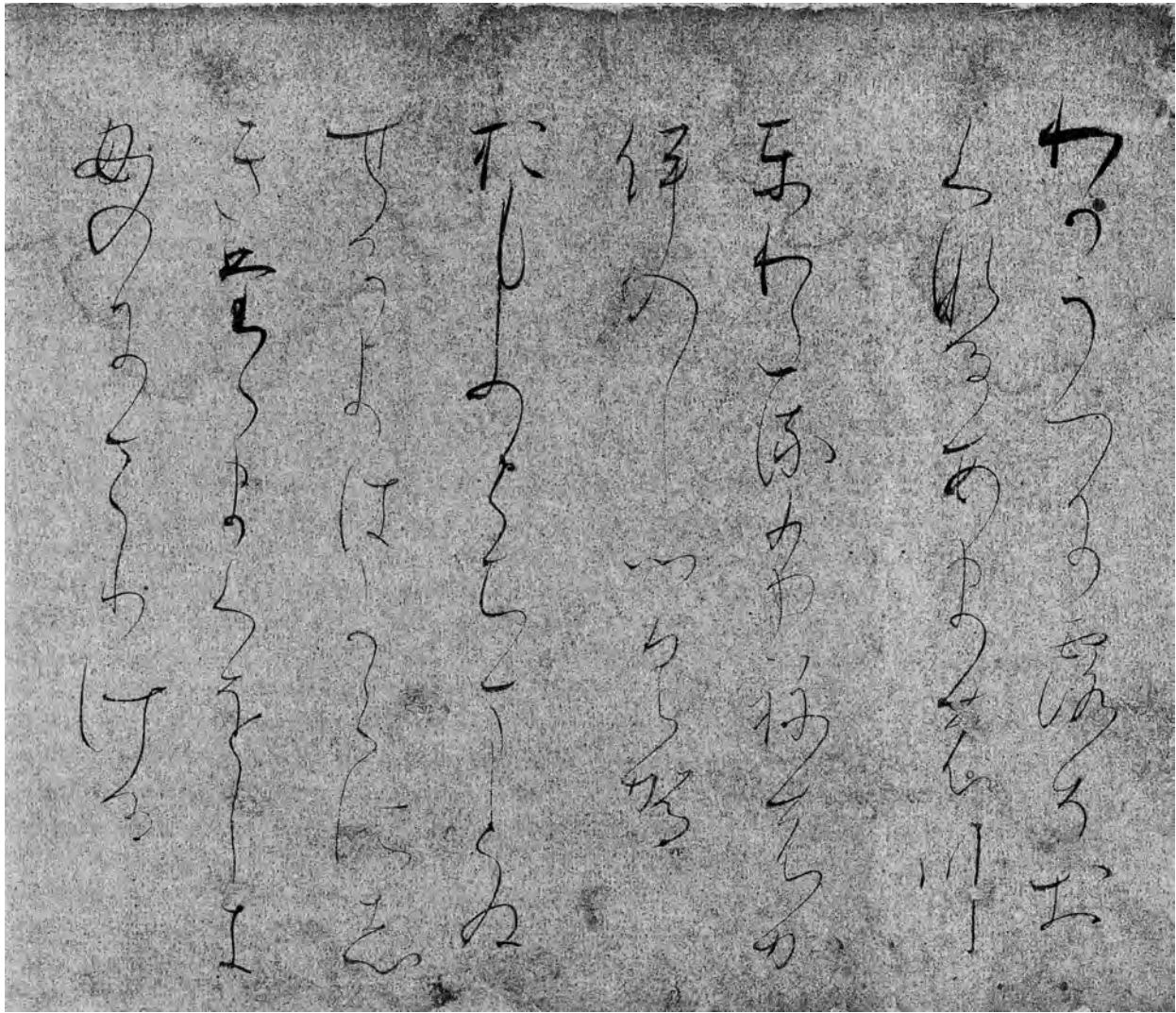
有此之後領茂林脩竹又有清流激

湍暝帶左右引以爲流觴曲水

永和九年。歲在癸卯。暮春之初。會于崇山峻領。茂林脩竹。又有清流激湍。映帶左右。引以為流觴曲水。亦足以暢叙幽情。雖無管弦之盛。一觴一咏。亦足以暢叙幽情。是日也。天朗氣清。惠風和暢。仰觀宇宙之大。俯察興亡之微。所以游目極視。會心無礙者。蓋亦在目。豈必在心哉。

張金界奴本 (90%縮小)

\*落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみも可）



(曼殊院藏)

## 古筆鑑賞 曼殊院本古今和歌集（伝藤原行成）①



151

（よみ）  
わがうへに露ぞおる  
おもふどちまどる

（よみ）  
久那山の川 せるよはからにし  
きたゝまくをしき

（よみ）  
とわたるふねのか  
ものにざりける

### 〈解説〉

曼殊院本古今和歌集は、京都の曼殊院に伝來した「古今和歌集」卷第十七の墨巻（巻子）本のうち、内容の一部が失われ、部

数のそろわないものの、また、その一部を残しているものである。巻頭に「古今和歌集卷十七、雜七十首」とあることから、もとは1巻全部を書き写したことが明らかであるが、今日では31首が現存している。

料紙は、巻頭から順に藍・浅黄・薄茶・藍・薄藍・藍・浅黄の漬き染めの紙、7枚を継いだ、縦14.2cm・横28.0cmの巻物である。半機紙は半紙サイズに切って使用のこと。筆の中で最も小さい巻子本であるが、行書（行頭の高さや行間をそろえて書く書き方）のためゆったりと見える。

この曼殊院本古今集は、優美でのびやかな書風ながら、力強いたましい線が特徴である。

（編集部）

※掲載図版は原寸

※落款を必ず入れる。署名、もしくは  
○○臨（押印のみも可）

かな研究部  
臨書課題

（半紙普通判（料紙可）・縦長に使用）  
別紙を裁断して貼付也可。半機紙は半紙サイズに切って使用のこと。  
上記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。（全臨も可）

特別研究部  
臨書課題

（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）  
上記の掲載以外も可。

習い方解説 (-)

辻元大雲

秋露如珠  
(秋露珠の如し)

(淹江)

秋露は白玉の如く清らかである。

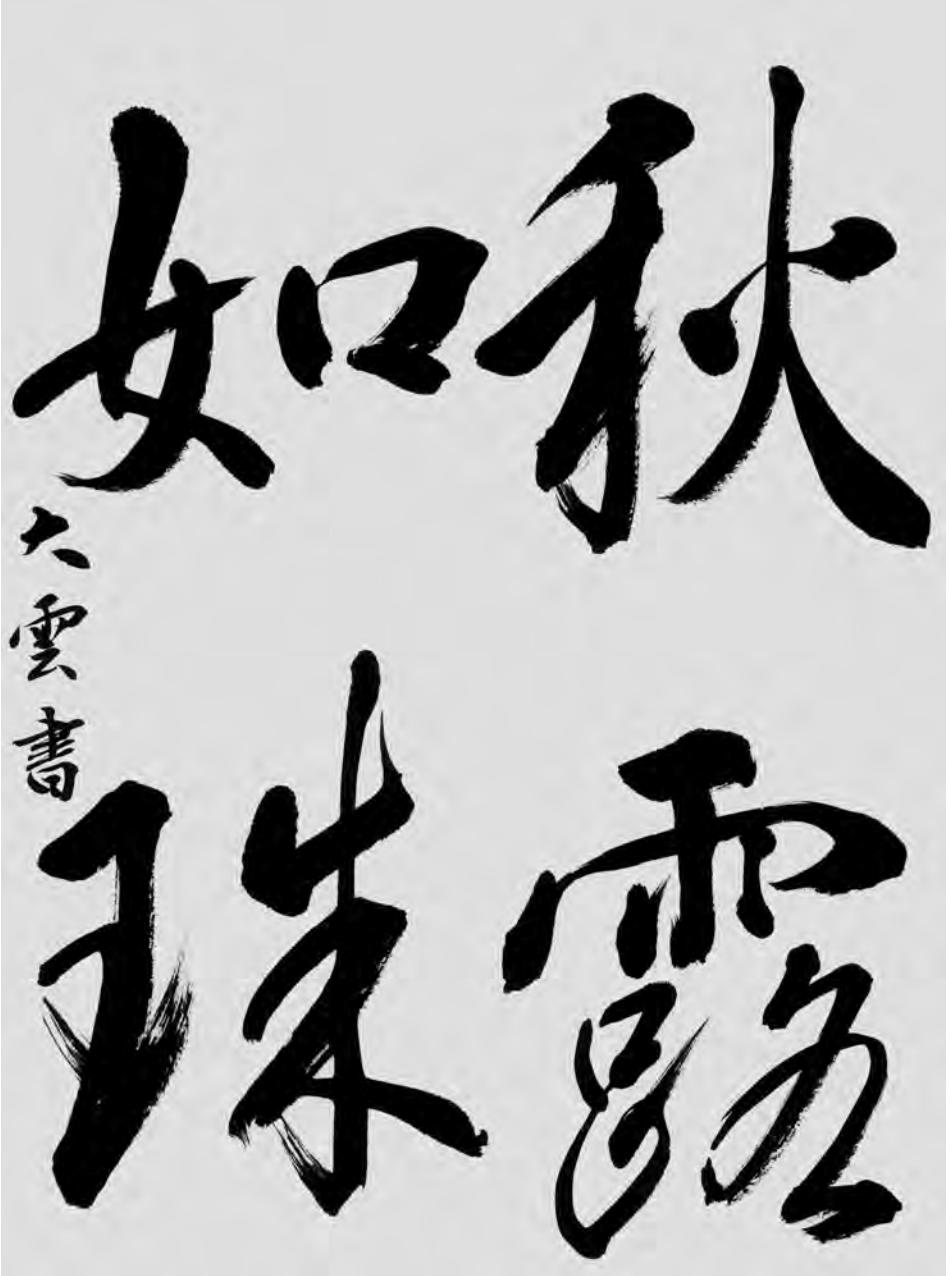
今月号より担当します。比較的に平易な語句及び表現としました。上級者は書体自由ですので自分なりにいろいろ工夫研究してみてください。

初回は秋の風情の4字句を選びました。行書の基本古典である集王聖教序の雰囲気を取り入れ、のびやかな中にすっきり爽やかな味わいを込めてみました。行書による省略や筆順の変化により運筆のリズムも変わってきます。

筆はやや硬めの兼毫筆を使用しました。切れ味の良い明快な線質を表現する場合には兼毫筆あるいは硬めの羊毫筆が向いています。潤滑の変化を効果的に表現したい時は、柔らかめの羊毫筆や長鋒筆なども面白いとおもいます。

秋露如珠 よみ（秋露珠の如し）

書体＝自由



習い方解説（一）

川島舟錦

日暮途遠  
(日暮れて途遠し)  
(史記)

日が暮れたのに前途はまだ遠い。  
年老いて、しかも目的がなかなか達せられそうにないことのたとえ。

日が暮れたのに前途はまだ遠い。  
そう、私もいつの間にか現職を退く年令になっていた。ふり返ってみても決して長くはなかった。何となく筆を持ち続けてきたけれど、何も残っていない。何となく…がいけなかつた。今、いかに勉強不足であるかということを思はしらされる場面は少なくない。一気に取り返すことなど、とうていできない長い道のりを、一步一歩進むしか解決の方法がないことがもどかしい。

日暮途遠 よみ（日暮れて途遠し）

書体＝楷書



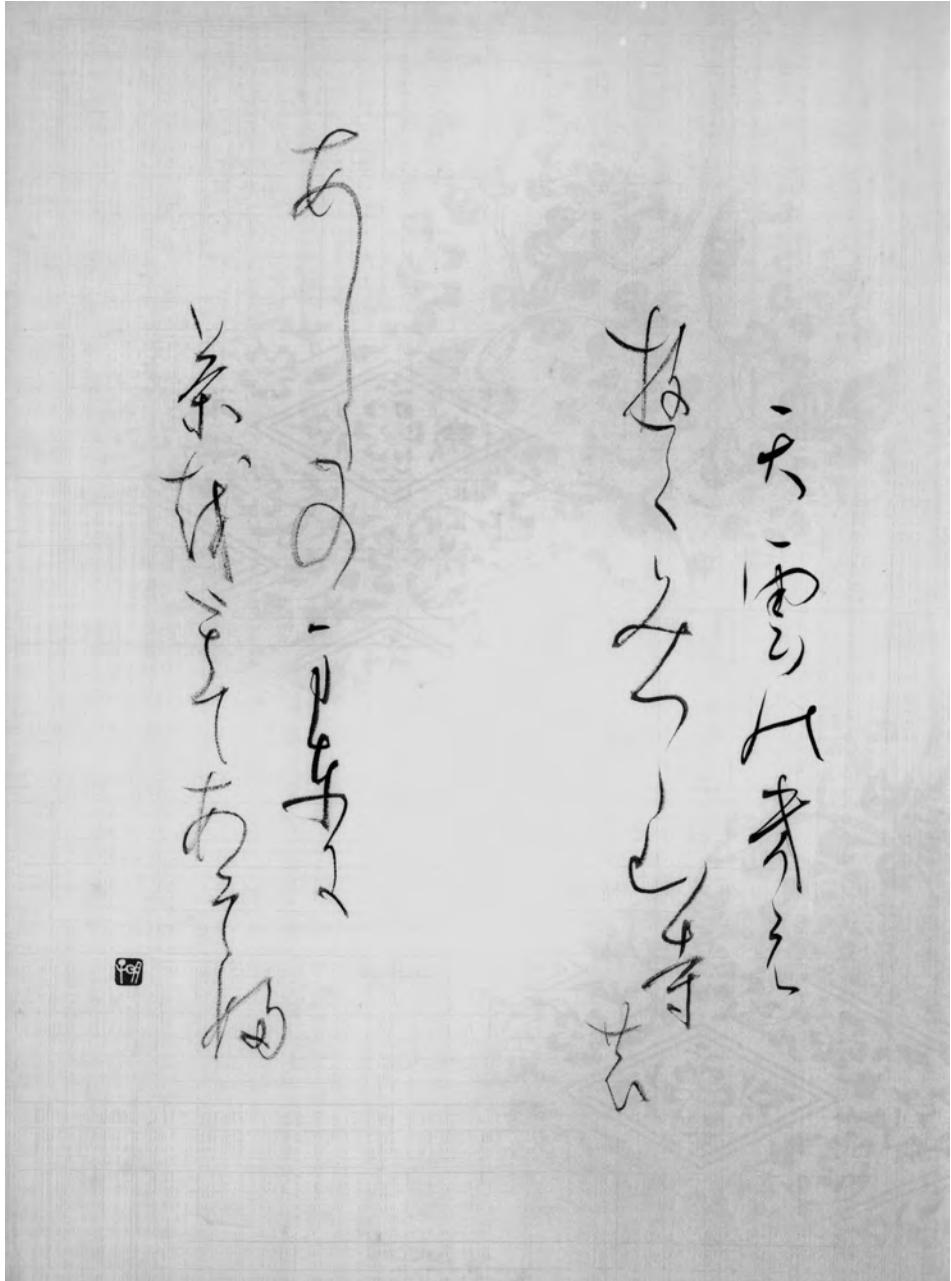
かな規定 初段以上【十一月十五日締めき】用紙 半紙普通判（料紙可）

石井明子選書

### 習い方解説 (一)

石井明子

天雲の消えゆく見つつ山寺の  
あしたの窓に茶を弄ぶ  
(伊藤左千夫)



創作に向うとき、私は自分が常日頃どんな作品を見たいと望んでいるかという思いからスタートします。自ずと書く内容選びには時間が掛ります。十分に文学鑑賞を楽しむ時間です。同時に視覚的にもイメージを膨らませていきます。いざ、紙面にのせると、必ず思いとは程遠いものにしかなりません。それから推敲を重ねます。完成と思うことはなく、どこかで気持に折り合いをつけて終りにします。

その過程を豊かにするために、技術を磨き、総合的に美意識を高める努力はしたいものです。好き嫌いからの出発でよいと思います。表現者であるという自覚をもつて「私はこう思う」という主張を持ちましょう。閃きで創作する人にとっては私の理解の外です。

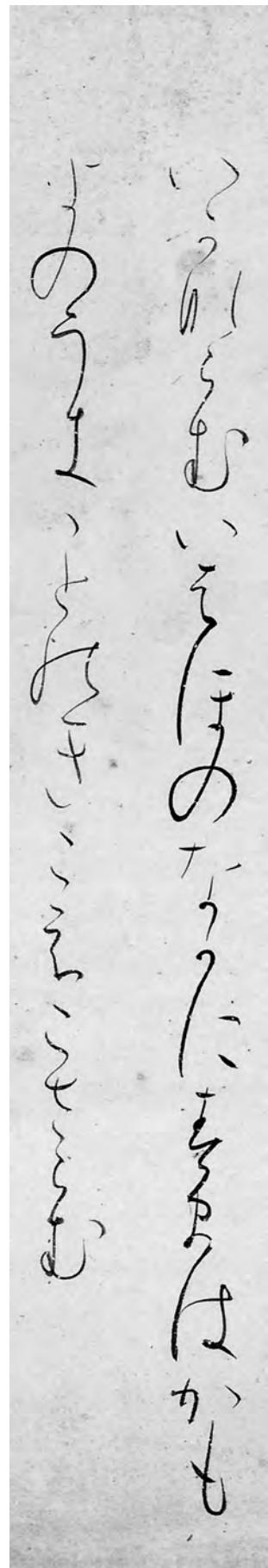
よみ方 天雲の(能)消(幾)えゆ(遊)く(久)見(み)つつ(ハ)山寺の(農)  
あした(多)の窓(万束)に(尔)茶を(越)弄(毛であそ)ぶ(婦)

創作

かな規定 秀級以下【十一月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ （料紙可）（たて32センチ・よこ12センチ）

掲載写真の和歌を全體、または部分（二字以上の連綿）を臨書する。

高野切第三種  
(掲載写真縮小93%)



### 習い方解説 (一)

善養寺 紅 風

かな条幅規定【十一月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切（料紙可）

善養寺紅風選書

月を見て心うかれしにしへの  
秋にもさらばめぐりあひぬる

(西行)

一般的な2行書きです。2行の  
行頭を漢字にしたので、月と秋が  
並ばないように工夫しました。流

れやリズム、行間等が一本調子に  
ならないように、また渴筆のとこ  
ろは、運筆の速さで墨色の変化が  
出せる事を意識して書いて下さい。

高段者の方は、文字の変換をして  
自分なりの景色を作つてみましょ  
う。

創作

よみ方 月を(越)見て心うかれ(連)しいに(尔)し(志)へ(遍)の  
秋に(耳)も(毛)さ(佐)ら(羅)に(一)め(免)ぐ(久)り(利)あひぬる



\*たて形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 [十一月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

小竹石雲選書

## 習い方解説 (一)

小竹石雲



真姿佳菊秋霜裏  
(真姿佳菊秋霜の裏)  
真意南山夕鳥邊  
(真意南山夕鳥の邊)

書体=自由

漢簡を基調にして素朴美を追求してみました。簡素ななかに線の強さ、深さを求めるように書きました。そのためには筆を立てるこ<sup>と</sup>が大切です。それと筆の弾力を用いてのリズム感のある運筆に心がけました。筆の開閉と緩急の変化から生まれる生彩感を大切にしました。筆は馬と羊毛の兼毫の中鋒を使いました。

\*たて形式に限る

## 習い方解説 (一)

前田 龍雲

漢字条幅規定 秀級以下 [十一月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

前田 龍雲選書

初心者にも比較的書きやすい、造像記風の楷書を参考手本にしてみました。起筆・終筆・転折に特徴があり、歯切れ良い線で凜とした空気感が出せればと思い書いてみました。単調な線にならないようにも心がけました。意味は「山中の秋に菊花は薫る」です。

龍雲書

書体=自由



山秋菊葉香  
(王褒)  
(山秋にして菊葉香ばし)



書体=自由

習い方解説(一)

塚越紅苑

夕空はれて秋風吹き、

つき、かけ落ちて鈴虫鳴く

おもへば遠し故郷の空

ああ、わが父母いかにおはす

紅苑書

今月より6回担当します。

日本各地で、今でも愛され、歌われているわらべ唄は、人々の暮らしの中から生まれました。その地方の伝統によつてはぐくまれ独特の世界を作り上げてきました。

幼い頃から聞いてきた唄です。いつも懐かしく心温まるそんな唄をとりあげてみました。真赤な夕焼けには胸を締めつけるほろ苦さがあります。

ペン運びは軽く、表現は強い筆力となるよう心がけ、行の中心が曲がらないよう注意しましょう。

唄を口ずさむ様に、リズムをつけて書いてみてください。

※落款を必ず入れる。  
(自分の名前を入れること)

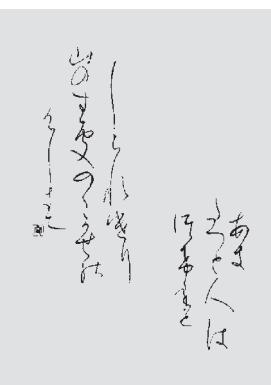
用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

今月の

ホープ作品  
各部総評 No. 664

かな部 師範 山口 雪翠  
古筆を学んでいることを窺わせる運筆が線に張りを生み、リズムも細やかで美しい。是非料紙でも細やかで美しい。是非料紙でも  
◎かな部総評 鍛度の高い作が多くあった。紙面に収める感覚をつかむため拡大コピーを勧めているが、徹底されず残念です。（洋子評）



かな部 師範 山口 雪翠  
古筆を学んでいることを窺わせる運筆が線に張りを生み、リズムも細やかで美しい。是非料紙でも細やかで美しい。是非料紙でも  
◎かな部総評 鍛度の高い作が多くあった。紙面に収める感覚をつかむため拡大コピーを勧めているが、徹底されず残念です。（洋子評）

老杏窓下風涼處疏

現代詩文書部 特選 茂木 紗水

焦らず紙面を大きく捉えた伸びやかな筆線からは、時空を越えた

思いが情趣をこめて伝わってくる。

◎現代詩文書部総評 何をどう表現するかという意思力をしっかりと書きこんでほしい。（石雲評）



前衛書部 特選 千葉 陽子

墨色冴え、詩情芽吹き悠々深々。豊かな作。落款の位置、大きさ等

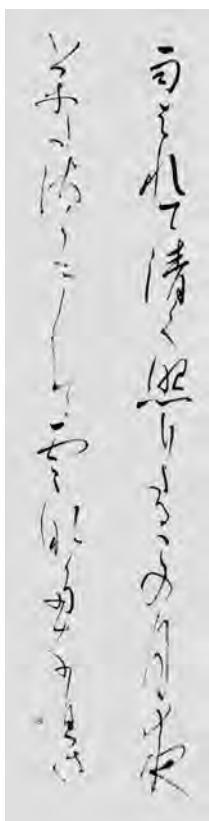
の工夫を。

◎前衛書部総評 ガサガサ、ペラペラした軽薄な作品減少。よりみる者に迫るもの期待します。（京子評）



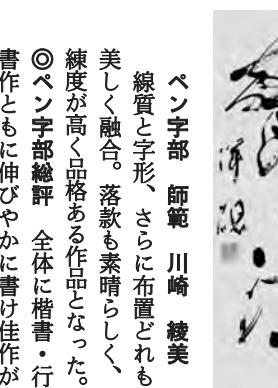
漢字部 師範 井上 洋硯  
柔軟で淑やかな渴線が実に美しい。細やかな神経が隅々に行き届いている。品性高い上質の作品。  
感が持てた。仕上りは未熟でも今後の成長が期待される。（萬城評）

◎漢字部総評 上級者は古典を基礎に创意工夫した作品も見られ好い。細やかな神経が隅々に行き届いている。品性高い上質の作品。  
感が持てた。仕上りは未熟でも今後の成長が期待される。（萬城評）



かな条幅部 師範 堀江 幸泉  
作者の総合的に高度な審美眼が伺われる格調ある作品です。淡淡と表現する魅力を教えられます。

◎かな条幅部総評 漢字照、夜、典を！ 書きすぎ、墨量过多はかな美を損うので要注意。（明子評）



イマジン  
さあ、イマジンして、「らん  
心の中で想ひ描いてみて  
ごらん」国境線なんか  
存在しない、地球の姿を  
新井満自由記 細美ひ

ペン字部 師範 川崎 綾美  
線質と字形、さらに布置どれも美しく融合。落款も素晴らしい。  
練度が高、品格ある作品となった。

◎ペン字部総評 全体に楷書・行書作ともに伸びやかに書け佳作が多くなった。用紙ははがきの大きさ(15×10cm)に統一。（紅瑠評）



今月の

# 特別研究部優秀作品(特選)



田村紅沙書

180×60cm

前衛書  
(蓮紅社)

田村紅沙

「舞う」

◆切れ味鋭く、構成空間処理もすばらしい作となっている。新しい仕事に挑戦する気持で頑張ってほしい。

(仙草評)

◆シャープな切れ味で、紙面に鮮明に切り込む。上部のインパクトが強烈で中央部やや弱かったか。

(大雲評)

◆センス光る細太のバランスで明るい作品に仕上った。多種多様の線質で見ていて楽しい作品である。

(龍雲評)

◆左上より右下へ斜めに走る細線は、紙面を切り裂くような鋭さを醸す。濃淡の墨色の変化が爽やか。

(多希子評)

現代詩文書 (大雲) 長島僕雨



長島僕雨書

45.5×176.5cm

◆上田桑鳩の隨筆集を淡々と無理なく綴る。潤渴の変化がリズムを醸し、自然な流れを感じさせる。

(大雲評)

◆練度高く複雑な線で最後まで書き進められている。構成はやや單調だがこれも狙いであろうか。

(龍雲評)

◆極端な行の広狭もなく、潤渴も自然な流れの中に読み進める。清々しくも温厚な心地良い作品。

(多希子評)

◆文字の強弱により、ゆったり効果的に表現された優秀な作となっている。最後に少し余韻がほしい。

(仙草評)

三軍餓饉朝不及夕先帝神略寺計委往還人深山窮谷民歎米豆道路不絕逐使  
強敵喪膽我衆作氣旬月之間廓清跋致當時實用故山澤太守間内蕉垂直之策  
越期成事不差豪傑先帝嘗以封爵授以廬郡今立嚴法禁食許不盡為庶民食  
不充臣愚欲望聖德錄其嘉熟於其走田泣得一相傳回報勤直力氣尚壯之餘  
夙夜保養人民庶愛國家異恩不取重罰固見事不吉千紀靈嚴 久矣

竹浪叙舟臨

135.5×35cm

臨書 (千葉) 竹浪叙舟  
「薦季直表」

部分拡大  
三軍餓饉朝不  
強敵喪膽我衆

「上田桑鳩 蟬の声」

臨書 (千葉)

竹浪叙舟



漢字研究部  
(薦季直表)

選評 川島舟錦

今月のホープ作品



塙木 泉華

漢字研究部 特選 產木 泉華

ることに驚かされる。薦季直表は、移行期に書かれたので、やや扁平な楷書。さらに所々

隸書や行書の趣きが感じられる楷書を、気負うことなくゆったりとした運筆で、落款を書き終えるまで息長く貫通させたところは見事です。よく鍛錬され、練り上げた線質で、品格ある作品となりました。

◎漢字研究部 総評

拓本を目前にした時「これほど強くて深い線質だったとは…」と、想像をはるかに越え

毎夏の単位認定講習会「原拓書道史」の時に今一度、この拓本を間近に見たいもの。また違った見方や受け取り方ができ、幅のある表現にもつながりそうです。



美春展 杏ふみ  
孝保子子 奈子

光美香祥雪英  
栄梢舟風華子

祥正雅朋裕雅  
扇美雲美泉風

由美霞麗久清陽  
花流美耀子

か な 研 究 部  
(高野切第一種)

選評 勝山初美

今月のホープ作品

الله رب العالمين

井上芝雲

かな研究部 特選 井上 芝雲  
墨継ぎと墨量の変化が美しく、緩急・抑揚の効いた線質は良く特徴をとらえ、平安貴族の気品を彷彿させて、格調高い見事な作品となりました。

## かな研究部成績表

昌華こ玉澄泉生澄長千樹秀東高白澄千一大玄翠玉や童上了澄やこ大附う英広蘭  
安こた高竜や有水游も澄仙玉波だか真泉ま秋海水く春台松佳  
入 范仙だ川春会大春月葉原水向崎陵珠春葉宮雲穹柳松ま泉泉か春まだ雲中る峰島鼎  
吉山宮湊増北藤深平平早花昌根丹西浪戸鶴積千近田田高高猿齋齋小黒国木吉川川片小大梅岩今伊石飯荒新阿熱青青  
田口川 田條本澤山坂里山津羽山川村田田葉池中玉橋草渡藤巻島柳峰村瀬本崎岡野石木上村東川泉川井天海木木  
妃 登 さ 美 かぶ 寺 坊 作 (50年間)  
翠雪洋美華喜佳だ形梅智芝飛惠葵秋博雅雅陽柳耶哲雅代草翠つみ竹理順彩南優照久星葦郁貴京洋洋裕松洗桃松葵  
綾翠子子秀子恵月子華艸子香龍子龍花舟裕雲子芳衣子泉子右香え子葉佳子雨汀子徳美祥山子泉子子泉草翠月郷